

米国農務省穀物等需給報告(2016年8月12日発表のポイント)

平成 28 年 8 月 15 日
大臣官房政策課食料安全保障室

米国農務省は、8月12日(現地時間)、2016/17年度の4回目の世界及び主要国の穀物・大豆に関する需給見通しを発表した。その概要は以下のとおり。

—2016/17年度の穀物及び大豆の生産量は消費量を上回る見込み—

1. 世界の穀物全体の需給の概要(見込み)

- ① 生産量: 25億4,709万トン(対前年度比 3.8%増)
- ② 消費量: 25億2,314万トン(対前年度比 3.8%増)
- ③ 期末在庫量: 6億2,210万トン(対前年度比 4.0%増)
期末在庫率: 24.7%(対前年度差 0.1ポイント増)

【主な品目別の動向】

小麦 : 生産量は、EUで多雨(フランス)により減少するものの、ロシア全土で良好な作柄と高単収に恵まれ増加、米国でも冬小麦の単収が史上最高となり増加すること等から、世界全体では史上最高となる見込み。また、消費量は、米国、中国等で飼料用需要増に伴い増加すること等から史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫率は前年度より上昇。

- ① 生産量: 7億4,344万トン(対前年度比 1.2%増)・・・ロシア、米国、アルゼンチン、カナダ等で増加、EU等で減少(前月に比べ、ロシア等で上方修正、EU等で下方修正)
 - ② 消費量: 7億3,250万トン(対前年度比 3.3%増)・・・米国、中国、インド等で増加
 - ③ 期末在庫量: 2億5,282万トン(対前年度比 4.5%増)・・・中国、ロシア、米国等で増加、インド、EU等で減少(前月に比べ、EU等で下方修正)
- 期末在庫率: 34.5%(対前年度差 0.4ポイント増)

とうもろこし : 生産量は、中国で国家備蓄政策廃止及び国内価格低下に伴う播種面積減により減少するものの、米国でミネソタ州及びサウスダコタ州を除く中西部の殆どの州で単収が前年度を上回り増加、ブラジル、アルゼンチン等でも増加することから、世界全体では史上最高となる見込み。また、消費量は、米国、中国、ブラジル等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回るものの、期末在庫率は前年度より低下。

- ① 生産量: 10億2,840万トン(対前年度比 7.2%増)・・・米国、ブラジル、アルゼンチン等で増加、中国等で減少(前月に比べ、米国、アルゼンチン等で上方修正)
 - ② 消費量: 10億1,693万トン(対前年度比 6.1%増)・・・米国、中国、ブラジル等で増加(前月に比べ、米国等で上方修正)
 - ③ 期末在庫量: 2億2,081万トン(対前年度比 5.5%増)・・・米国等で増加、中国等で減少(前月に比べ、米国等で上方修正)
- 期末在庫率: 21.7%(対前年度差 0.1ポイント減)

米(精米) : 生産量は、米国でカリフォルニア州の中・短粒種米の作付面積拡大に伴い増加、インド等でも増加することから、世界全体では前年度を上回り史上最高となる見込み。また、消費量は、インド等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回り、期末在庫率は前年度より上昇。

- ① 生産量: 4億8,108万トン(対前年度比 2.2%増)
 - ② 消費量: 4億7,883万トン(対前年度比 1.1%増)・・・インド等で増加
 - ③ 期末在庫量: 1億1,377万トン(対前年度比 2.0%増)・・・中国等で増加、タイ等で減少(前月に比べ、インド等で上方修正)
- 期末在庫率: 23.8%(対前年度差 0.2ポイント増)

2. 世界の大豆需給の概要(見込み)

生産量は、ブラジルで収穫面積の増加及び単収の上昇から増加、米国でも単収の上昇から増加、中国では政策変更によりとうもろこしから大豆への播種転換が促されること等から、世界全体では前年度を上回り史上最高となる見込み。また、消費量は、中国等で増加することから史上最高となる見込み。世界全体の生産量は消費量を上回るものの、期初在庫が低いことから、期末在庫率は前年度より低下。

- ① 生産量: 3億3,041万トン(対前年度比 5.7%増)・・・ブラジル、米国等で増加(前月に比べ、米国等で上方修正)
 - ② 消費量: 3億2,982万トン(対前年度比 4.0%増)・・・中国等で増加
 - ③ 期末在庫量: 7,124万トン(対前年度比 2.4%減)・・・米国等で増加、中国、アルゼンチン等で減少(前月に比べ、アルゼンチン等で上方修正)
- 期末在庫率: 21.6%(対前年度差 1.4ポイント減)

担当: 大臣官房政策課食料安全保障室 松井、浅田 (内線3805)

(参考1)

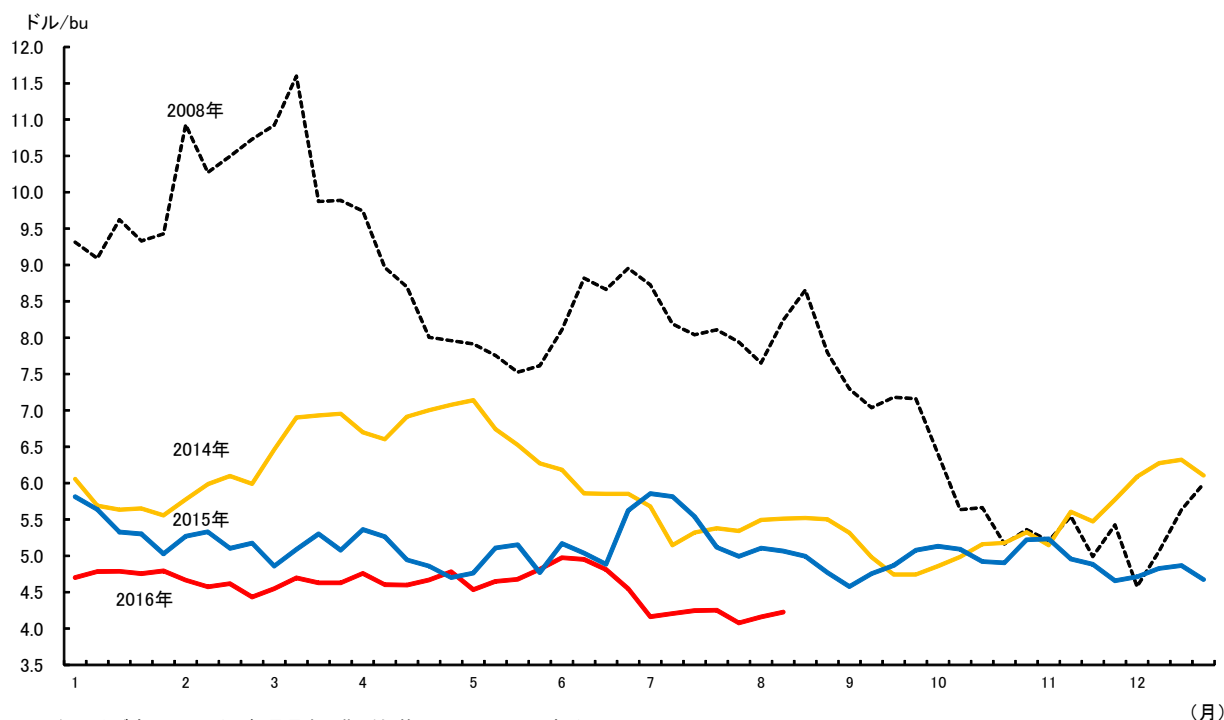
世界の穀物の価格動向(2016年)

● 小 麦:4.16ドル/bu(前年同時期の価格:5.11ドル/bu)

(価格は、シカゴ商品取引所における8月第1週末の期近価格(セツルメント)。)

2015年1月以降、世界的に潤沢な在庫・供給量が改めて確認される中、米ドル高の進展による米国産の割高感、米国大平原での降雨・降雪による土壌水分量の上昇、4月以降の米国春小麦の作付進展等から4ドル/bu台後半まで値を下げたものの、5月以降、米国冬小麦の多雨による作柄悪化懸念・収穫遅延等から6ドル/bu近くまで値を上げた。7月以降、世界全体の供給量が潤沢なこと、米国での収穫進展等から4ドル/bu台半ばまで値を下げたものの、9月以降、黒海沿岸地域や豪州での乾燥懸念等から5ドル/bu台前半まで値を上げた。11月以降、米国産冬小麦の作柄改善見込み等から4ドル/bu台後半まで値を下げた。

2016年2月以降、米国大平原での降雪による凍害懸念の後退、米国の農業観測会議における需給緩和見通し等から4ドル/bu台前半まで値を下げた。3月以降は米国大平原での乾燥・気温低下、5月以降は米国の中西部及び大平原南部、欧州・黒海沿岸地域での多雨型の天候による作柄悪化懸念から5ドル/bu前後まで値を上げたものの、6月以降は米国で冬小麦の順調な収穫進展等から値を下げ、現在は4ドル/bu台前半で推移。



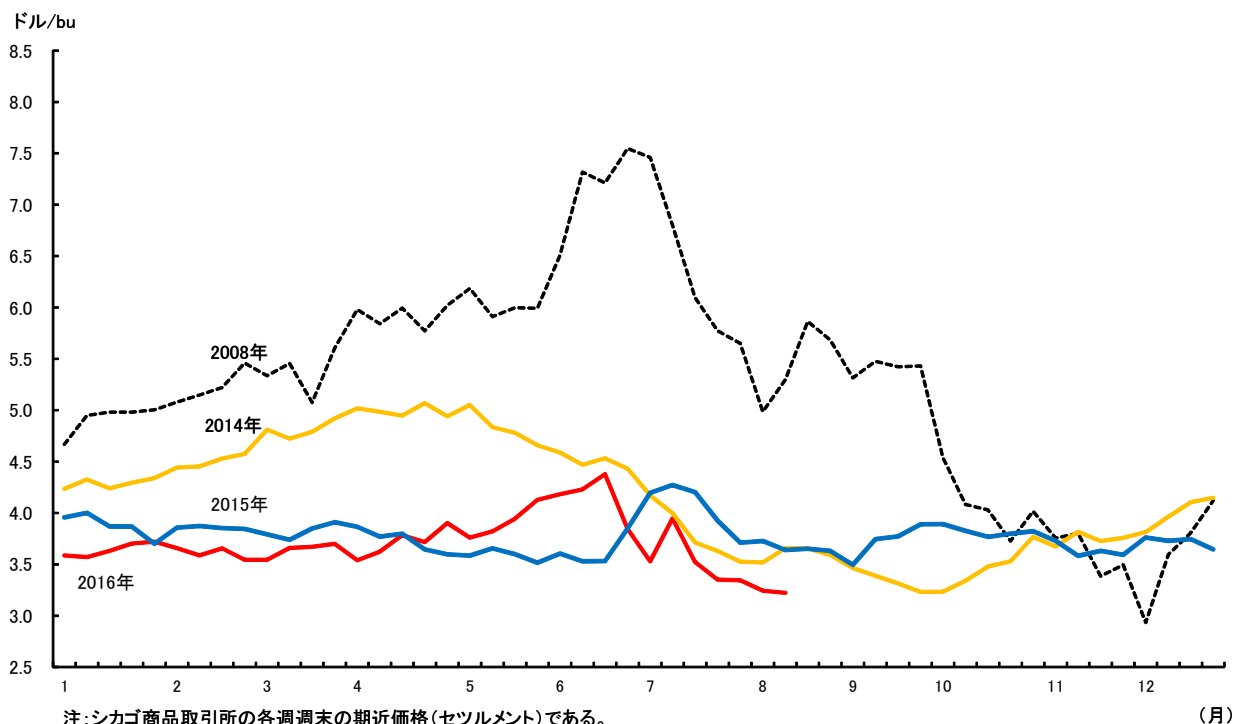
注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移。

(月)

- とうもろこし: 3.24ドル/bu(前年同時期の価格: 3.73ドル/bu)
(価格は、シカゴ商品取引所における8月第1週末の期近価格(セツルメント)。)

2015年1月以降、南米の豊作見込みや、4月以降の米国の作付進展等から3ドル/bu台半ばまで値を下げたものの、6月中旬以降、多雨による作柄低下懸念等から4ドル/bu台前半まで値を上げた。7月中旬以降、米国中西部での天候回復から3ドル/bu台半ばまで値を下げたものの、9月以降、世界の期末在庫の引き締め見込みから値を上げた。11月上旬以降、中国の在庫大幅引上げや米国の単収見込み引上げによる需給緩和観測等から3ドル/トン台半ばまで値を下げた。

2016年4月以降、ブラジル中西部での乾燥型の天候やアルゼンチンの多雨型の天候による収穫遅延及び作柄悪化懸念及び米国中西部での高温・乾燥予報による作柄悪化懸念から4ドル台前半まで値を上げたものの、6月中旬以降、米国中西部で降雨により作柄悪化懸念が後退したことから値を下げ、現在は3ドル/bu台前半で推移。



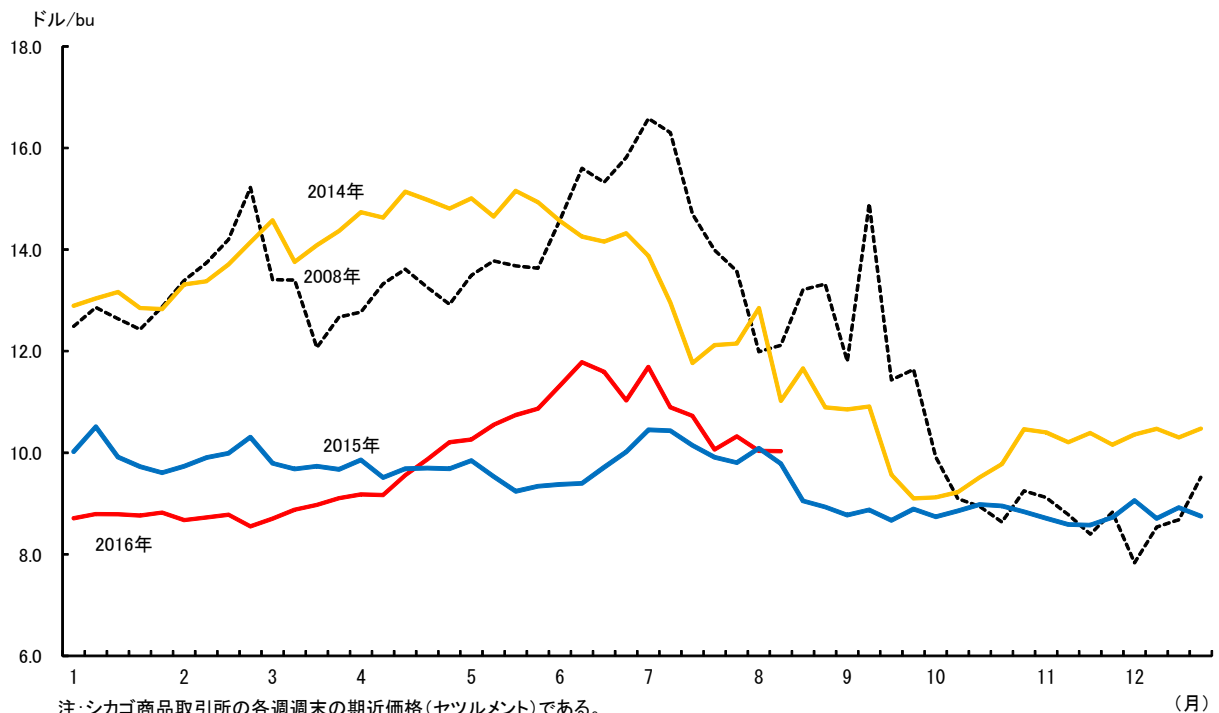
注:シカゴ商品取引所の各週週末の期近価格(セツルメント)である。
グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格の推移

(月)

● 大豆:10.04ドル/bu(前年同時期の価格:10.09ドル/bu)
 (価格は、シカゴ商品取引所における8月第1週末の期近価格(セツルメント)。)

2015年1月以降、南米の豊作見込み等から値を下げた後、2月中旬から3月初旬のブラジルでのトラック運転手によるストライキを受けて一旦値を戻した。5月中旬以降、米国の作付進展等から9ドル/bu台前半まで値を下げたものの、6月上旬以降、米国中西部の一部で頻繁な降雨による作付遅延により10ドル/bu台半ばまで値を上げた。7月中旬以降の天候回復、8月中旬以降の中国の輸入減退懸念等により値を下げた。

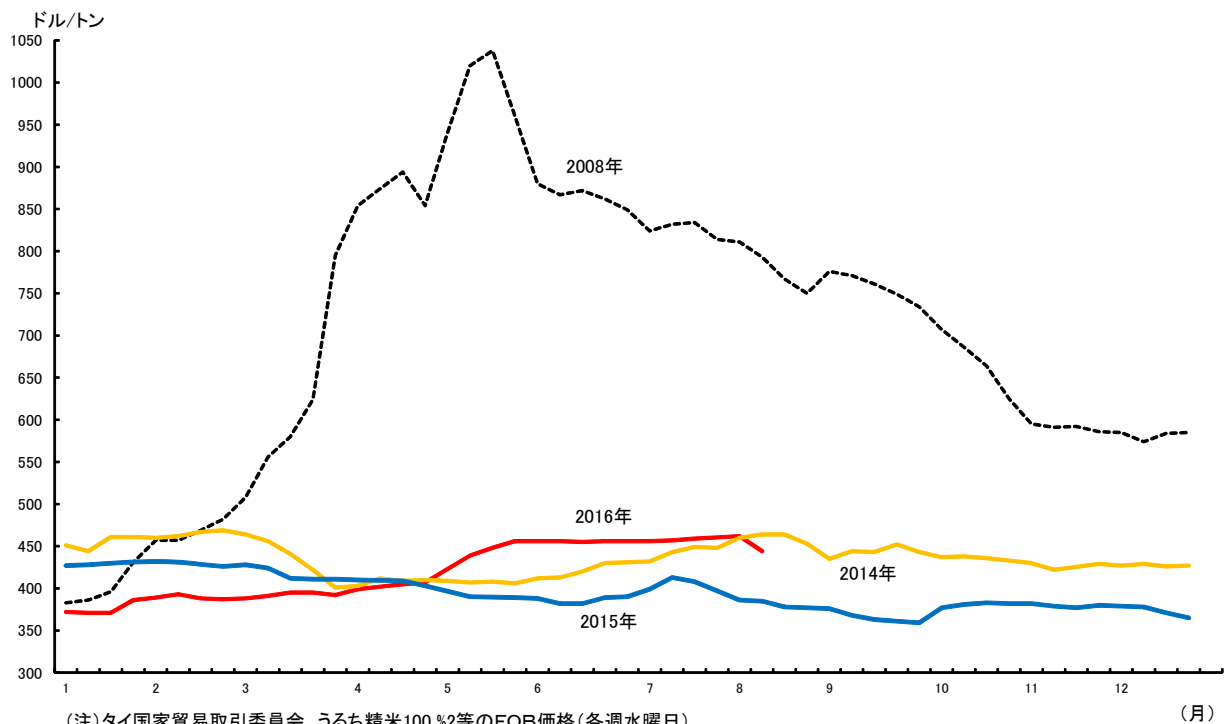
2016年3月初旬以降は堅調な輸出需要、4月以降はアルゼンチンの多雨型の天候による収穫遅延及び作柄悪化懸念及び米国中西部での高温・乾燥予報による作柄悪化懸念から11ドル/bu台後半まで値を上げたものの、7月上旬以降、米国中西部で降雨により作柄悪化懸念が後退したことから値を下げ、現在は10ドル/bu前後で推移。



● 米: 462ドル/トン(前年同時期の価格: 386ドル/トン)
 (価格は、タイ国家貿易取引委員会における8月第1週の水曜日のFOB価格。)

2015年1月以降も、引き続きタイの政府在庫放出から380ドル/トン台まで値を下げた。タイの干ばつによる供給不足懸念から、7月半ばには410ドル/トン前後まで値を上げたものの、その後のタイの更なる政府在庫放出から9月下旬には360ドル/トン前後まで値を下げた。10月以降、フィリピン、インドネシアの輸入見込みから380ドル/トン台まで値を上げたものの、11月下旬以降、インドでの収穫の進展等から360ドル/トン台半ばまで値を下げた。

2016年1月半ば以降、タイでの水不足による乾季米の不作から上昇し、現在は440ドル/トン台で推移。



(注)タイ国家貿易取引委員会、うるち精米100%2等のFOB価格(各週水曜日)
 グラフは、価格が高騰した2008年と直近3年の価格推移。

(参考2)

1 為替レート(対ドル円相場)

単位:円/ドル

2006年度	2007年度	2008年度	2009年度	2010年度	2011年度	2012年度	2013年度	2014年度	2015年1月	2月
116.89	114.35	100.64	92.85	85.71	79.05	82.89	100.16	109.75	118.24	118.57
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2016年1月
120.39	119.55	120.74	123.75	123.23	123.23	120.22	120.06	122.54	121.84	118.25
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
115.02	113.07	109.88	109.15	105.49	103.90					

出典：為替相場(東京インターバンク相場) 東京市場、中心相場 スポット・レート
日本銀行; 主要時系列統計データ表 <http://www.stat-search.boj.or.jp/>
年度別は、日次データの平均値。月別は、月次データの月中平均。

2 海上運賃(フレート)

単位:ドル/トン

2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年1月	2月
41.16	78.91	93.65	50.71	63.59	54.88	49.18	46.63	44.35	34.25	26.25
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2016年1月
29.00	29.75	28.25	31.00	34.00	37.00	32.80	28.75	28.00	24.40	22.25
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
20.25	22.00	23.50	25.80	27.50	30.75					

出典：米国(ガルフ)ー日本間、Heavy Grains, 50,000トン以上
国際穀物理事会(International Grains Council); Ocean Freight Rates, 「World Grain Statistics」, 「IGC Grain Market Indicators」
月別は、週別価格の平均値。

3 原油価格(WTI: 米国ウエスト・テキサス・インターミディエート)

単位:ドル/バレル

2006年	2007年	2008年	2009年	2010年	2011年	2012年	2013年	2014年	2015年1月	2月
66.21	72.34	99.65	61.80	79.53	95.12	94.21	97.97	93.00	47.33	50.72
3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	2016年1月
47.85	54.63	59.37	59.83	50.93	42.89	45.47	46.29	42.92	37.33	31.78
2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
30.62	37.96	41.12	46.80	48.85	45.24					

出典：内閣府経済財政分析統括官付海外担当「海外経済データ -月次アップデート-」平成28年7月, 127頁
但し、2016年7月は、米国エネルギー情報局(U.S. Energy Information Administration)「Weekly Petroleum Status Report」の7月29日までの週別価格の平均値。